



# 白身魚タルタルソース CFP 算定報告書

2024. 2. 14

## 1. CFP 算定の目的

当社は、2022年より開始した中期経営計画「海といのちの未来をつくる MNV2024」のサステナビリティ戦略として9つのマテリアリティ（重点課題）を設定し、そのうちの

一つ、「気候変動問題への対応」において、以下の目標を設定しました：

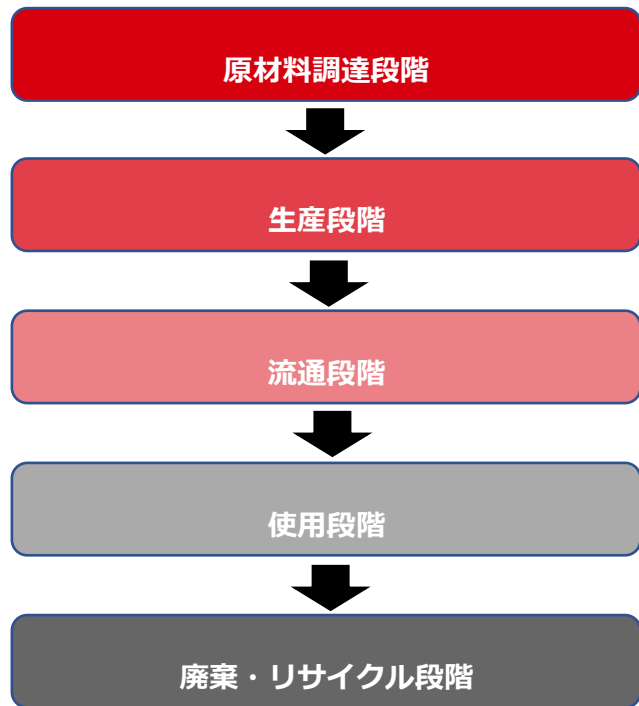
- ・ 2030年度に、CO<sub>2</sub>排出量 30%削減（2017年度比）
- ・ 2050年度に、カーボンニュートラル達成

上記目標のもと、当社製品のライフサイクルにおける GHG（温室効果ガス）排出量の削減を目的に、またお客様に「エコな選択肢」を提供する第一歩として、当社代表製品の一つである、「白身魚タルタルソース」を用いて、当該製品のカーボンフットプリントの定量化や可視化に取り組みます。

## 2. 対象製品と対象とするライフサイクル

対象製品	製品名	白身魚タルタルソース
	内容量	6個入り（126g）
	主原料	アラスカ産すけとうだら
	算定単位	1製品
	対象とする構成要素	製品本体：白身魚タルタルソース 6個 包装資材：トレイ、フィルム 輸送資材：段ボール等

対象とするライフサイクル



排出量のインパクト  
が小さいもの

- ・ 複数の製品に使える消耗品の GHG 排出量
- ・ 原材料を調達する際に活用した輸送資材や梱包資材の GHG 排出量

カットオフの基準  
と対象

対象製品に固有化で  
きないもの

- ・ 生産工場などの建設、生産設備の調達・廃棄に係る GHG 排出量
- ・ 事務部門や研究開発部門などの間接部門に係る GHG 排出量

インパクトが小さい  
と推定されるが実態  
の把握が難しいもの

- ・ 消耗品を外部から調達する際の輸送段階の GHG 排出量
- ・ 電力を使用しない、人力による作業

### 3. データ情報

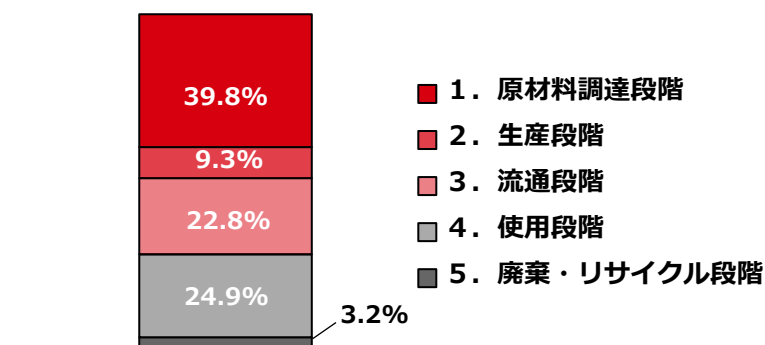
#### データ収集範囲に含まれるプロセス/データ収集項目

原材料調達段階	原材料の生産	原材料使用量
	原材料の輸送	輸送距離、輸送重量
生産段階	製品の生産	エネルギー使用量
	廃棄物処理	廃棄物重量
	廃棄物の輸送	輸送重量
	製品の輸送	輸送距離、輸送重量
流通段階	製品の保管	保管倉庫でのエネルギー使用量、 店舗でのエネルギー使用量
	廃棄物処理	廃棄物（梱包用資材）重量
	廃棄物の輸送	輸送重量
	製品の保管	家庭用冷凍庫のエネルギー使用量
使用段階	製品の使用	電子レンジ調理時のエネルギー使用量
	廃棄物の処理	廃棄物（トレイ・フィルム）の重量
廃棄・リサイクル段階	廃棄物の輸送	輸送重量

#### 4. 算定結果

# 0.93 kg-CO<sub>2</sub>eq

本製品の CFP 算定結果は

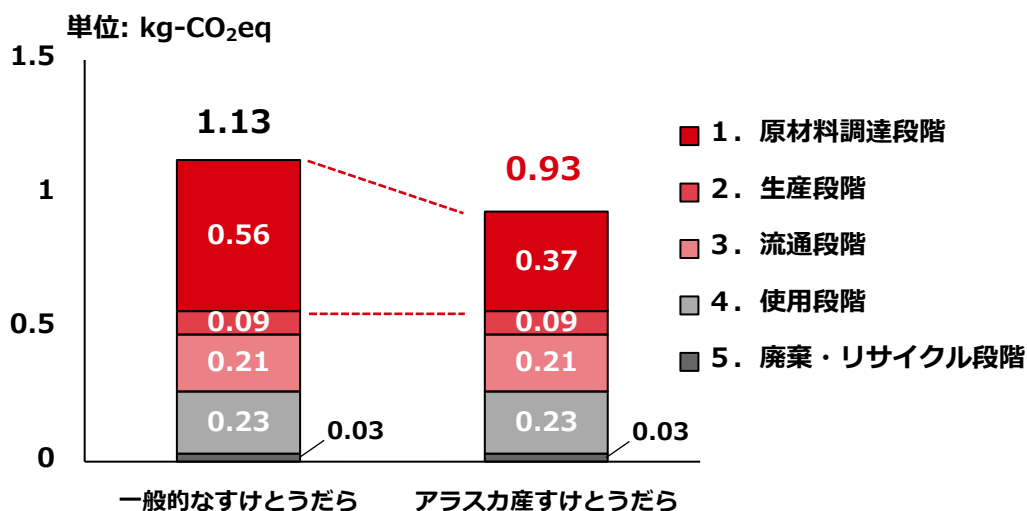


本製品の特長として、**MSC 認証取得アラスカ産すけとうだら**を原材料に用いています。アラスカ産すけとうだらは資源管理状態も良好で、環境・水産資源に配慮した漁法、加工が行われているため、持続可能な漁業の証である MSC 認証を取得しています。一般的なすけとうだらの原単位を用いて本製品の CFP を算定した場合、1.13 kg-CO<sub>2</sub>eq であったのに対し、アラスカ産すけとうだらの原単位を用いて算定すると、0.93 kg-CO<sub>2</sub>eq となり、原材料調達段階における CFP を約 **34%削減**、ライフサイクル全体における CFP を約 **17%削減**できることが示されました。

この削減量は、1 製品あたり杉の木 1 本が約 8 日間吸収する CO<sub>2</sub> 相当の量を削減できることを示しています。

(杉の木 1 本が 1 年間に吸収する CO<sub>2</sub> 量を 8.8 kgCO<sub>2</sub> で計算※)

※出典：農林水産省林野庁 HP: 地球温暖化防止に向けて



使用した二次データベース：

- ・ IDEA ver.3.1
- ・ 環境省排出原単位データベース ver.3.3
- ・ 環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」
- ・ Quantis: Life Cycle Assessment of Wild Alaska Pollock(2021)

設定したシナリオ：

一次データが取得できないまたは取得が困難な場合はシナリオを設定。

- ・ 原材料の輸送距離や製品の輸送距離
- ・ 製品の店舗・家庭での保管
- ・ 製品の使用

CFP 算定にあたり、CFP ガイドライン（経産省・環境省）、ISO14067:2018 を参照して自社で算定ルールを作成しております。

## 5. 調査の限界と将来の方向性

算定における課題・  
不確実性

サプライチェーン上流・下流を問わず、GHG の排出削減を CFP の結果に反映させるには、実測値を取得する必要あり。  
(今回はシナリオを設定)

当該製品の包材(トレイ・フィルム)のリサイクル率が不明。

算定のルールの整理と優先すべき収集範囲の整理が必要。

今後の方針

シナリオを設定した部分について、今後取得が可能となった際は実測値を使用。

生産工場・保管倉庫での再生可能エネルギーの導入を促進。

プラスチック包材のバイオマスプラスチック等への切替を促進。